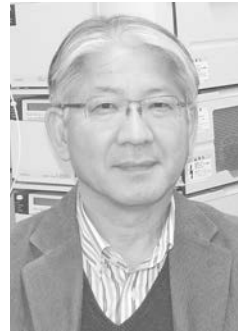


II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第319回

島根大学の活動報告



浅尾 俊樹 (島根大学 生物資源学部教授)

バングラデシユの

若手研究者向け養液栽培研修

今年8月16日～8月19日、JST(科学技術振興機構)の「さくらサイエンスプログラム」によりバングラデシユから研究者6名を招へいし、島根大学で養液栽培についての研修を行いました。

今回、島根大学生物資源科学部で実施した「バングラデシユ若手研究者向け養液栽培研修」はバングラデシユ国立農業研究所(8ARI)から若い研究者を招いて、2018および19年度に実施し、21年度にはコロナ禍、オンラインで行ったプログラムに次ぐ4回目になります。今回の参加者は昨年度オンラインで参加した研究者で、彼らは来日を楽しみにしていました。

バングラデシユは、面積が日本の約4割、人口は1億6000万人を超えています。主要産業は衣料品・縫製品産業と農業です。日本にもバングラデシユから「ジュート製ロープ」などが輸入されています。バングラデシユでは今まで他国の技術支援で化学肥料や殺虫剤を多用して作物を栽培したため、土壌の環境汚染や残留農薬により農作物の品質低下を招いています。

そこで、バングラデシユの若手研究者を日本に招致し、土壌を使用しない養液栽培技術を習得し、バングラデシユの安全な食料生産と貧困農家の所得向上を目指してもらうため、本研修を企画しました。

バングラデシユ国立農業研究所の研究者6名は8月15日午後バングラデシユのダッカ国際空港を出発し、タイ・バンコック経由で16日早朝に羽田国際空港に到着しました。羽田空港からは国内線で米子空港、そしてバスで島根大学がある島根県松江市まで長旅が続き、バスから降りてきた彼らは疲れた

さくらサイエンスプログラムのスケジュール

【1日目】 8月16日(火)	AM	羽田国際空港5:50着 羽田国際空港9:15発・米子空港10:35着、米子空港発松江駅行きバス
	PM	松江駅11:35着、宿泊ホテルへ移動、休憩後、島根大学へ移動 副学長(理事)表敬訪問、大学案内、松江城視察
【2日目】 8月17日(水)	AM	農場・植物工場支援研究施設見学 講義「養液栽培の概要と培養液」
	PM	講義「葉菜類の養液栽培、低カリウムメロン生産」 実習「イチゴの組織培養、植物体および培養液の分析」
【3日目】 8月18日(木)	AM	島根県立農業技術センターの視察
	PM	出雲大社視察(出雲市)、由志園・日本庭園視察(松江市)
【4日目】 8月19日(金)	AM	講義「人工光型植物工場と自家中毒」 実習「培養液作成、EC・pHの測定と分析」
	PM	修了証授与式 米子空港20:45発 - 羽田国際空港22:15着 羽田国際空港00:05発 - バングラデシユ(ダッカ国際空港)へ

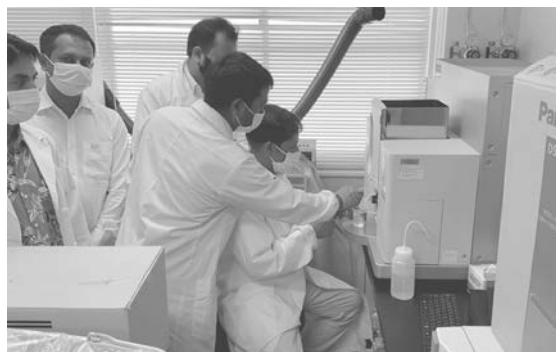
顔も見せずに、これから始まる研修を楽しみにしている様子でした。ホテルにチェックイン後、研修1日目が始まりました。

● 1日目

研修1日目の8月16日には、本学理事への表敬訪問を行いました。理事からは歓迎の言葉があり、訪問研究者の代表からは本研修と今後の日本との交流発展への期待が述べられました。その後、学生アンバサダーによる島根大学紹介と松江キャンパスツアー(島根大学総合博物館アシカルや附属図書館など)が行われました。その後、日本の歴史遺産である国宝・松江城を見学しました。天守閣の急な階段を上りながら、各階の展示物では鎧や日本刀などに興味があったようでした。

● 2日目

2日目の17日には、本庄総合農場で研修を行いました。午前中は植物工場支援研究施設やハウス等の見学を行いながら日本の養液栽培技術について学ぶと共に、島根大学で行われている養液栽培研究について見聞することができました。過去の「さくらサイエンスプ



植物体の分析



メロン養液栽培ハウス



浅尾教授④から修了証が授与された



植物工場支援研究施設

本プログラムで4回目を迎えた「パングラデシユ若手研究者向け養液栽培研修」ですが、養液栽培技術の紹介だけではなく、「パングラデシユ版養液栽培」の発展に繋がる内容を充実させるために準備段階から交流を深めると共に、パングラデシユで養液栽培が発展するためのサポートを模索していきたいと思えます。

今後、彼らがパングラデシユでのように養液栽培技術を発展させ、パングラデシユ国民の健康と農家の所得向上を担っていくのか、彼らの活躍を願いつつ、本プログラムを修了しました。

了書が参加者一人一人に手渡されました。参加者からは多くの感謝と帰国後、この研修で得た知見を農業に活かせるように努力したいという言葉がありました。そして、日本との交流継続や日本への長期の留学を望む声もありました。

3日目の18日は、出雲市にある島根県農業技術センターを訪れ、アスパラガスやミニトマト、そして、メロンハウスの見学と試験研究について説明を受けました。パングラデシユの研究者からは多くの質問が出ていました。パングラデシユではアスパラガスの栽培はなく、農技センターの方の好意によりアスパラガスの試食が行われ、その味に満足でした。また、ミニトマトを口にしながら、その選果機を見せてもらいました。昼食にはうどんや天ぷらを食べました。中にはうまく箸を使う研究者もいました。昼食後、出雲大社を訪れ、大きなしめ縄に彼らは驚いていました。その後、松江市に戻り、日本庭園の由志園に向かいました。由志園がある大根島は牡丹の産地で牡丹を開花させるための技術が確立しています。その技術を生かして、由志園では1年中ボタンを開花展示しています。伝統的な日本庭園では多くの場所で写真を撮り、1日が終わりました。

● 3日目

● 4日目

4日目の19日は、本庄総合農場で培養液の分析法などの実習が行われ、すべての研修が終了しました。その後、このプログラムの修了書が参加者一人一人に手渡されました。参加者からは多くの感謝と帰国後、この研修で得た知見を農業に活かせるように努力したいという言葉がありました。そして、日本との交流継続や日本への長期の留学を望む声もありました。